

「みんなで創り出す”共生のまちづくり”」
生活支援コーディネーター活動報告

地域版人材養成講座「居場所トーク in 甲東」

「(仮)社会福祉法人連絡協議会設立準備会」スタート



I. 生活支援コーディネーターの配置経過等	P. 2
II. 生活支援コーディネーターの業務内容と活動件数	P. 3
III. 生活支援コーディネーターの具体的活動	
1. 新たな支え合いづくり	
① 地域の「つどい場」づくりの推進	P. 6
② 大型お片づけサポートプロジェクト（スーパーお片づけ隊活動）	P. 9
2. 連携・協働に向けた取り組み	
① 西宮市地域づくり支援事業（介護保険モデル事業）関連	P. 13
② 協力事業者による高齢者見守り事業（西宮市との協働事業）	P. 14
③ 社会福祉法人の地域貢献等におけるネットワーク化について	P. 14
④ 大学・NPOとの連携（会議・事業）	P. 15
3. 総合相談支援体制に向けた取り組み	P. 15
4. その他	P. 15
IV. 一年間の活動と今後について	P. 16

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課

平成31年3月

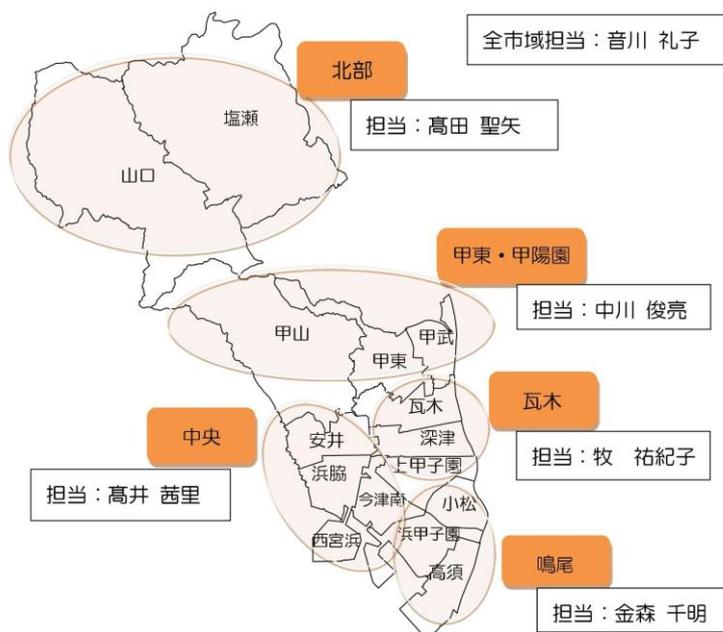
I. 生活支援コーディネーター（生活支援Co）の配置経過等

- ・国の介護保険改正（H27年4月）に伴い、地域における生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加を目指し、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘など地域資源の開発や、地域の多様な主体のネットワークの構築に向けて配置
- ・「生活支援コーディネーター設置事業」の委託を受け、初年度（H27年度）の2人配置から年々1人ずつ増員され、3年目（H29年度）は3人、そして4年目の今年度は2人増員となり6人配置となり、**第1層生活支援コーディネーターとして1人、さらに地域包括ケア連携圏域（5圏域・下記参照）に各1人ずつの計5人の第2層生活支援コーディネーターが配置された。**
- ・現在の社会状況や西宮市社協第8次地域福祉推進計画に関連して、高齢分野を中心にしながらも、障がいや生活困窮など地域で生きづらさを抱えている人や世帯等にも視野や活動を広げることで本来の地域の姿である“共生のまちづくり”を目指した。
- ・生活支援Coの役割としては地域づくり（地域の支え合いに向けた新たな仕組みづくり等）が中心であるが、個人の抱える課題へのアプローチをとおして新たな支えあいの仕組みづくり、地域課題を捉えていく視点も大切しながら取り組みを行った。
また、各圏域の地域性に応じながら、そのエリアを担当する地区担当者や専門職や各機関等との連携を促進し、圏域ごとの人材育成や拠点づくり等へのアプローチを行った。

◎生活支援コーディネーター（以下、生活支援Co）の配置経過と地域状況等

年度	生活支援Co数	地区担当者数	人口	高齢化率	小学校	地区社協	地域包括支援C（うち在介C）	備考
平成27年度	2	6	484,796	22.4	40	34	15（1）	
平成28年度	3	6	485,563	22.7	41	35	15（1）	樋ノ口社協設立
平成29年度	4	6	485,344	23.3	41	35	15	西宮浜在介→地域包括支援Cへ
平成30年度	6	7	485,072	23.6	41	35	15	

[地域包括ケア連携5圏域を基本とした生活支援Coの圏域担当状況]



II. 生活支援コーディネーターの業務内容と活動件数

1. 業務内容

主な業務内容（市委託内容）

1. 地域資源の把握・開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

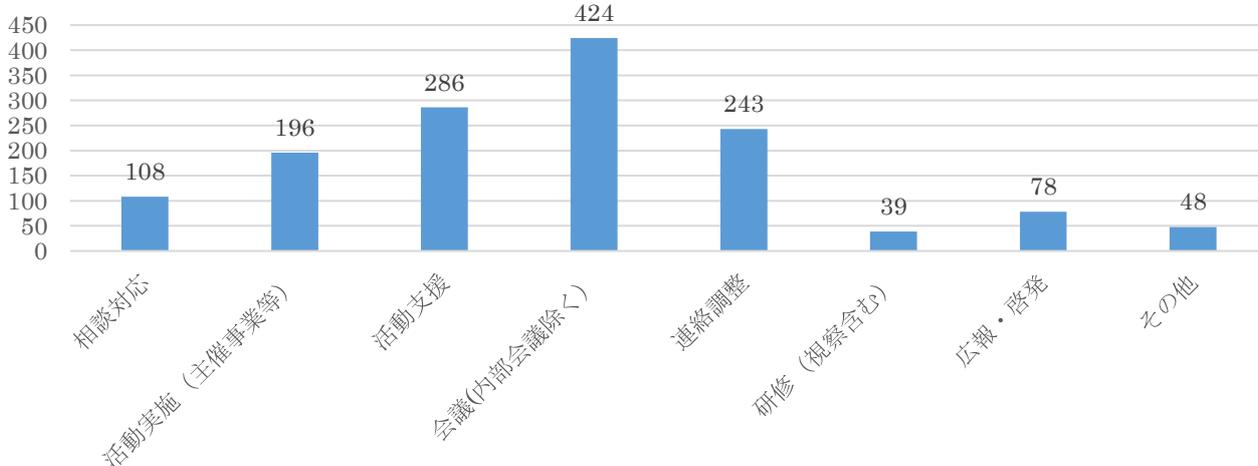
2. 活動件数

活動内容	H30 年度		H29 年度		H28 年度		H27 年度	
	件数	割合 (%)						
相談対応	108	8%	85	11%	47	10%	36	9%
活動実施 (主催事業等)	196	14%	76	10%	54	12%	23	6%
活動支援	286	20%	111	15%	60	13%	46	12%
会議 (内部会議除く)	424	30%	299	40%	174	37%	166	44%
連絡調整	243	17%	104	14%	66	14%	36	9%
研修 (視察含む)	39	3%	25	3%	15	3%	35	9%
広報・啓発	78	5%	29	4%	42	9%	21	6%
その他	48	3%	22	3%	11	2%	18	5%
合計	1,422	100%	751	100%	469	100%	381	100%

(参考：活動内容の詳細)

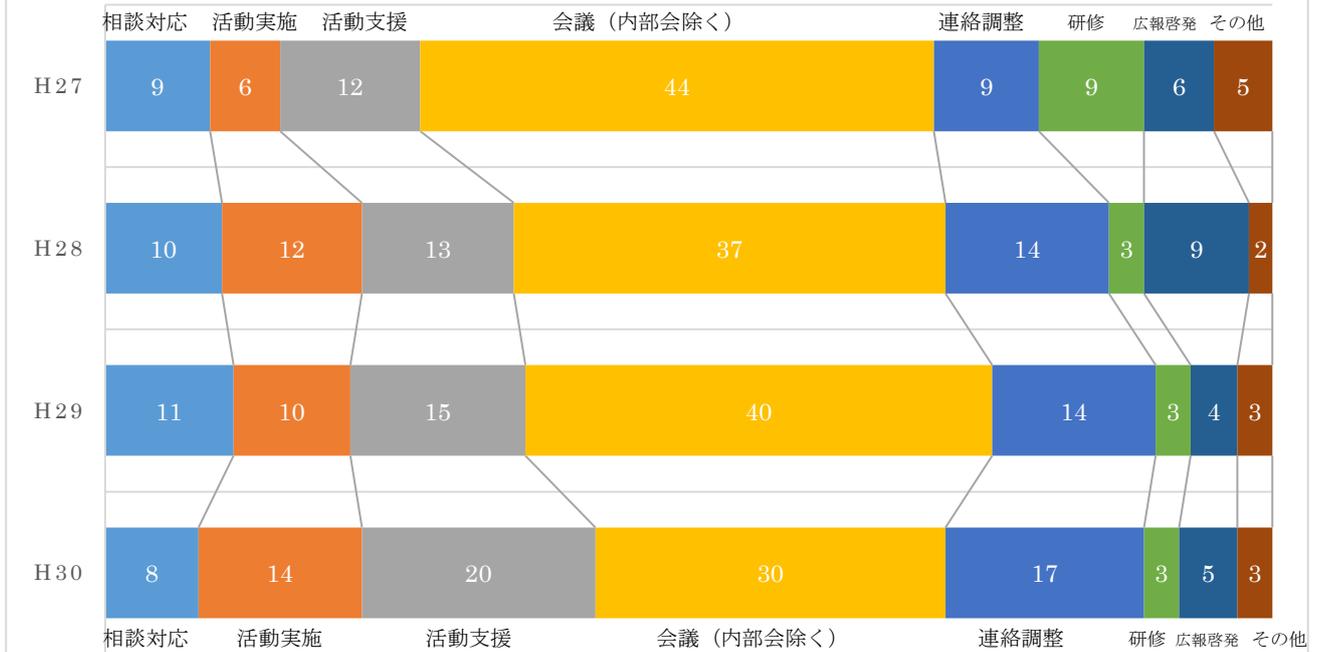
活動実施（主催事業等）・・・人材育成セミナー、社会福祉法人連絡協議会準備会開催等
 活動支援・・・・・・・・・・地区社協等活動支援、つどい場支援、グループ活動支援等
 連絡調整・・・・・・・・・・活動者及び関係機関との調整、団体・個人等の連携調整等
 広報・啓発・・・・・・・・・・生活支援 Co および地域づくり等の説明や講義等

H30年度 生活支援 Co 活動件数（内容別）



今年度も活動で一番多いのが「会議」であるが、特に新しい生活支援コーディネーターが地域を知るために地区社協の会議に出る機会や圏域ごとの専門職会議、また、3ヶ所の共生型地域交流拠点に関連するプロジェクト会議等が増えている状況がみられる。

生活支援Co活動内容内訳(%)の年度経過



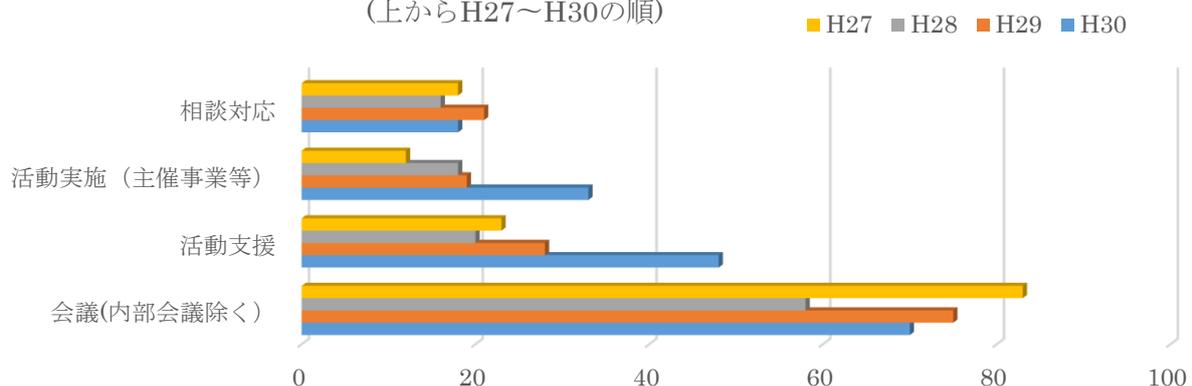
「活動実施」「活動支援」「連絡調整」の割合がやや増加している。

全市的な取り組みとして「社会福祉法人連絡協議会設立に向けた準備会」が始まったことや、各圏域担当者による地区支援の件数が増えたことが要因と思われる。

☆生活支援C 一人あたりの活動件数 (四捨五入)

	H30年度 (全 1,422 件)	H29年度 (全 751 件)	H28年度 (全 469 件)	H27年度 (全 381 件)
活動全件数	237 件/1人	188 件/1人	156 件/1人	190 件/1人
相談対応	18 件/1人	21 件/1人	16 件/1人	18 件/1人
活動実施	33 件/1人	19 件/1人	18 件/1人	12 件/1人
活動支援	48 件/1人	28 件/1人	20 件/1人	23 件/1人
会議	70 件/1人	75 件/1人	58 件/1人	83 件/1人
連絡調整	40 件/1人	26 件/1人	22 件/1人	18 件/1人
研修	7 件/1人	6 件/1人	5 件/1人	18 件/1人
広報・啓発	13 件/1人	7 件/1人	14 件/1人	11 件/1人

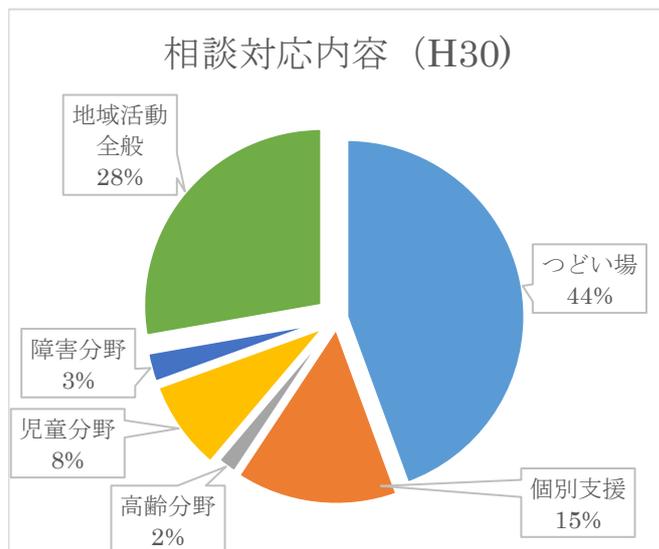
生活支援C 一人あたりの活動内容 (件数) の推移
(上からH27~H30の順)



生活支援コーディネーター一人あたりの「活動実施」「活動支援」の件数が増加している。

3. 相談対応内容

内容	H30	H29	H28	H27
つどい場	48	32	22	12
個別支援 (片づけ相談含む)	16	32	11	5
高齢分野	2	8	7	5
子育て分野	9	4	1	9
障害分野	3	4	1	2
地域活動全般	30	5	5	3
合計	108	85	47	36



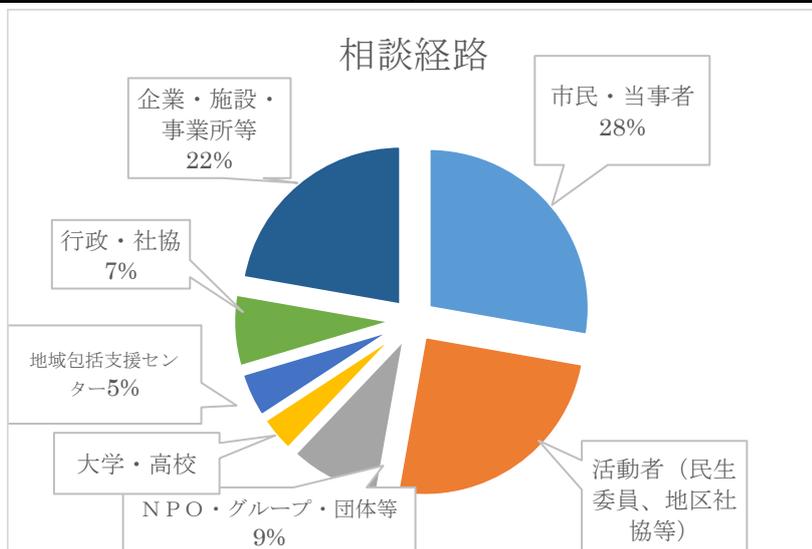
相談対応全108件のうち、「つどい場」が48件と半数近くを占めている。

「高齢」「障害」という分野に限った相談は減少しているが、分野を限定しない形の「地域活動全般」の内容での相談が増えてきている。

一方で、「子育て」分野については増えてきており、「不登校の子の居場所」「障害児をもつ親が集まる場」などを作りたいといった相談が寄せられており、地区社協などの地域活動や子育てコンシェルジュなどの専門職と連携しながら相談対応している。

※ 相談経路 ※

内容	H30	H29	H28	H27
市民・当事者	30	35	18	18
活動者（民生委員、地区社協等）	27	19	8	5
NPO・グループ・団体等	10	9	14	7
大学・高校	4	4	4	2
地域包括支援センター	5	3	1	2
行政・社協	8	11	1	1
企業・施設・事業所等	24	4	1	1
合計	108	85	47	36



相談経路は約相談半数が市民・当事者および活動者といった個人であり、残りの半数は団体や専門機関である。

今年度は特に、福祉施設からの地域貢献に関する相談やお店やお寺などで「居場所」に関する取組みをしたいといった相談が多かったことが特徴的であった。

Ⅲ. 生活支援コーディネーターの具体的活動

1. 新たな支え合いづくり

1. 地域資源の開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

① 地域のつどい場づくりの推進

個人の家や自治会館、公共施設等を活用して、住民同士が身近に気軽に集まれる場所としての多様な「つどい場」づくりを推進するために、つどい場に関する啓発・相談対応、交流会や研究会の実施、およびつどい場づくりや地域活性に向けた地域人材養成を目指して「全市版つどい場講座」「地域版人材養成講座」をおこなった。

つどい場交流会

日 時：平成 31 年 2 月 22 日（月） 13:30～15:30

場 所：地域共生館ふれぼの 2階多目的ホール

内 容：ペアトークおよびグループトーク つどい場 5・7・5 の募集等

参加者：33 人（実践者 24 人、検討者 7 人、関係者（コープ・シニアサポート）2 人



ペアトークの様子



つどい場 5・7・5

つどい場普及推進研究会

第 1 回 日 時：平成 30 年 10 月 5 日（金） 13:30～15:30

内 容：「地域のつどい場開設助成要綱」の改訂と助成状況について
共生型地域交流拠点について

第 2 回 日 時：平成 31 年 3 月 27 日（水） 13:00～15:00

内 容：「つどい場」関連事業の実施状況
つどい場の整理と普及方法について（主に広報）

生活支援コーディネーターが圏域ごとに「人が集まる場」を訪ねて地域資源を発掘、その際に「つどい場交流会」の案内を行うことで「こども食堂」「認知症カフェ」というテーマ型や自治会ごとに行っているお茶会などの参加も得られ、交流会は昨年に比べて倍近い参加者数となった。

多様な活動者が混ざり合うことで、これまでより情報交換の内容が濃くなったこともあり、今後も多様な「居場所」を発掘しながら、「つどい場」の内容整理も行っていくことが必要。

研究会については、地域で拠点活動を行う一般社団法人等の新たな参画も得られたが、さらに行政等のまちづくり分野の参画者を促進していきたい。

西宮市つどい場ネットワーク

H31年3月末現在：18カ所登録（新規5カ所）

（新規加盟リスト）

圏域	名称	内容	開催場所
鳴尾	サロン ひだまり	月1回、おしゃべりや体操、音楽等を楽しむサロン	コープ西宮東店 組合員集会室
中央	香櫨園ほっとサロン	癌患者や遺族サロンとして開始、他にも悩みを抱えた方も訪れる傾聴サロン	代表者宅
北部	プチキャビン	元居酒屋を活用して介護相談カフェやこども食堂などを実施	旧店舗 (代表者宅)
中央	つどい 楽遊 (らくゆう)	自治会員だけでなく、地域の高齢者や障害者の作業所などにも開かれたお茶会	自治会館
鳴尾	つどい場 このゆびとまれ	自宅を活用した地域だんらんカフェ (H31.4.29 オープン)	代表者宅

◎地域福祉人材養成事業

つどい場講座 オープン版

<第1回>

日時：平成30年10月3日(水) 14:00～16:00

場所：西宮市市民交流センター ホール

講師：浅見 雅之さん

合同会社人・まち・住まい研究所 代表社員

参加者：38人

テーマ「つどい場ってまちづくりかもしれない」



<第2回>

日時：平成30年10月10日(水) 14:00～16:00

場所：西宮市市民交流センター ホール

講師：登壇者：安齋 律子さん つどい場“あん”
木村 宏美さん ぬくもり会(一里山町みなみ会自治会福祉部)
中村 保佑さん こもれど(東灘こどもカフェ)

進行：西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課 生活支援コーディネーター 音川係長

参加者：48人



つどい場ステップ講座

<第1回>

日時：平成30年12月7日（木）14～16時

場所：地域共生館ふれぼの

講師：大岡 栄美さん 関西学院大学社会学部准教授

主な内容：○つどい場ははじめの一步（想いの共有）

○見てみよう！聞いてこよう！（疑問の共有・見学準備）

<第2回>

つどい場視察：8ヶ所15人（のべ）参加

<第3回>

日時：平成31年2月1日（金）14～16時

場所：地域共生館ふれぼの

講師：大岡 栄美さん 関西学院大学社会学部准教授

主な内容：○グループトーク（視察先のつどい場紹介）

○つどい場を作ろう！（インタビュー・シート作成）、ポスター報告

地域版人材養成事業：居場所トーク in 甲東

平成30年度は甲東地区にて実施。つどい場講座より「小地域でなにかやりたい」というニーズが顕在化し、そのニーズへの対応と「新たな人材の発掘」「多様な人材の交流」「今後の活動展開を考えるきっかけ作り」等の推進を目的に当該地区の地区社協や関係団体等と協働して開催した。

日時：平成31年3月21日（木）祝日 13：30～15：30

場所：甲東小学校 ランチルーム

参加者：39人（社協7、自治会6、活性化委員4、民生2、いきいき2、小学校3、青愛協5、事業所2、その他8）



甲東地区では、地域の中で特に子どもに関する居場所の必要性を考えている人や団体が多くみられたが、それぞれが繋がっていない現状があった。その状況をふまえて、今回のワークショップを企画提案したところ、地区社協の積極的な協力が得られ、当日の参加者数や様子からも地域諸団体や地域に暮らす住民の中でもとても関心が高かったことが分かった。

内容を「地域の課題を一緒に考える」という形式ではなく、「地域の未来を語る」という内容に転換して実施、初対面の方も多く、新たな関係性が生まれるきっかけとなっていた。終了後、事業所が地域のサロンに講師として参加などの日常的にも関係し合える展開や、住民による新たな居場づくりが始まっている。

② 大型お片づけサポートプロジェクト
(スーパーお片づけ隊活動)

1. 地域資源の開発
2. ネットワークの構築
3. ニーズと取り組みのマッチング

認知症や発達障害等の個人の状況に加えて、制度の狭間や社会的孤立、生活困窮等が要因となってゴミ屋敷化している世帯等への支援の仕組みとして「大型お片づけサポートプロジェクト」を平成27年度に立ち上げた。

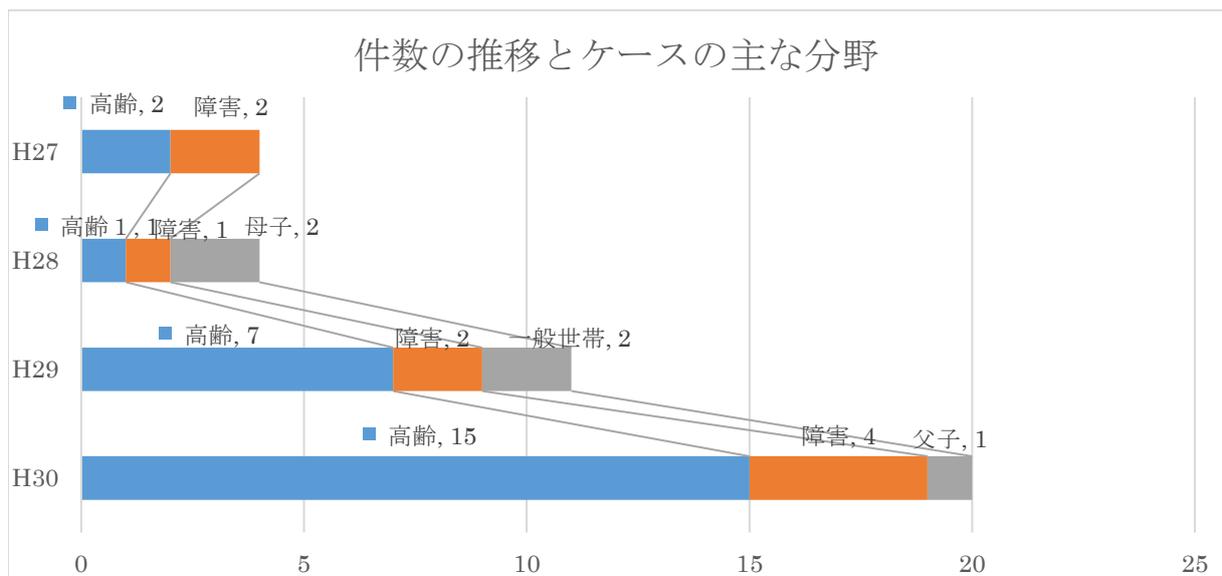
既存の地域活動「お片づけ隊」を参考にしながら作り出したゴミ屋敷支援のボランティア活動の仕組みである「スーパーお片づけ隊」を実際に動かすことで具体的な支援（掃除）活動を行いながら、本人・家族を中心にしながら、専門職や地域住民、行政等を交えての支援の輪づくり（ネットワーク）の構築を目指している。

プロジェクトが目指すこと

「ごみを取り除くことによる“地域とのつながり直し”の支援と、ゴミ屋敷化を繰り返さないための専門職および地域住民による支援・見守り体制づくり」

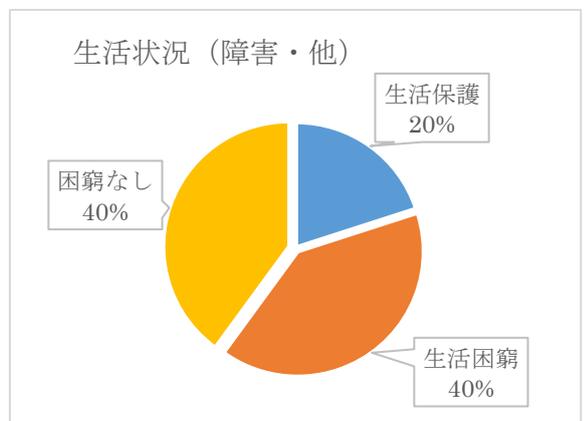
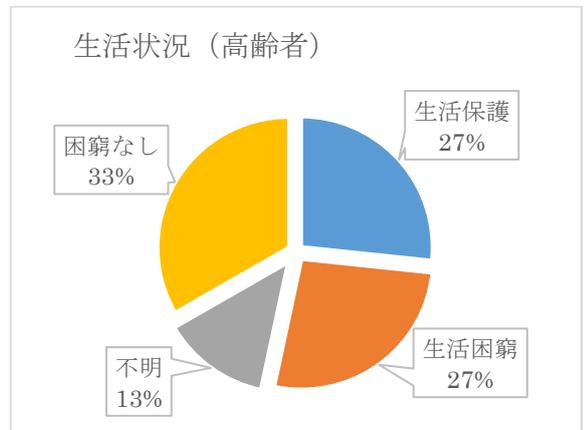
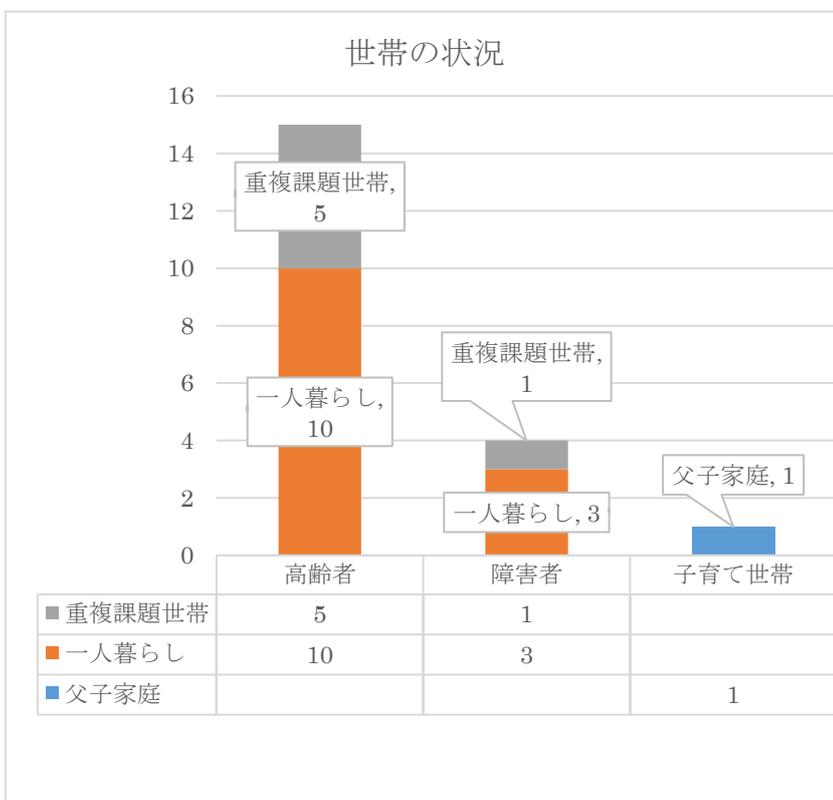
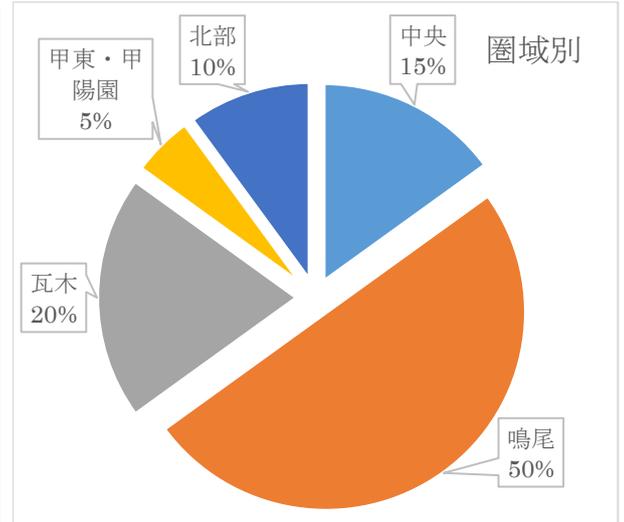
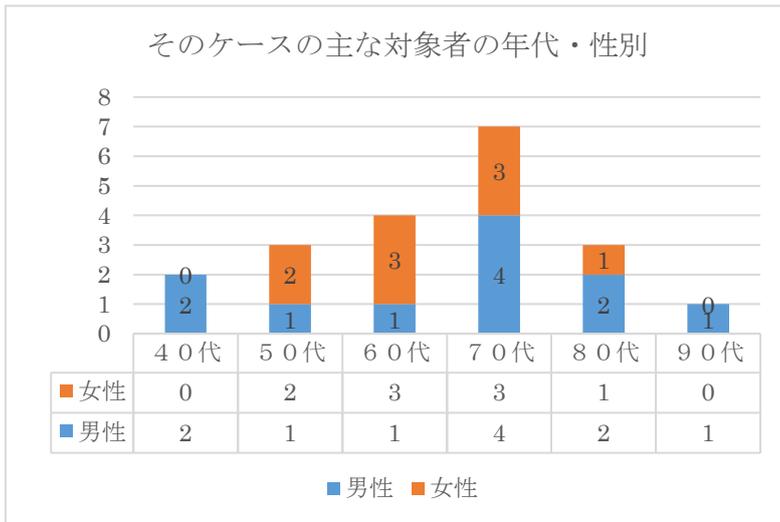
◎ 年度別新規ケース数とその圏域

年度	新規ケース数（主な分野）	圏域
H27年度	4（高3・障1）	鳴尾2 甲東・甲陽園1 瓦木1
H28年度	4（高1・障1・母子2）	中央1 鳴尾1 甲東・甲陽園1 瓦木1
H29年度	11（高7・障2・世帯2）	中央4 鳴尾5 瓦木2
H30年度	20（高15・障4・父子1）	中央3 鳴尾10 甲東・甲陽園1 瓦木4 北部2
合計	39	

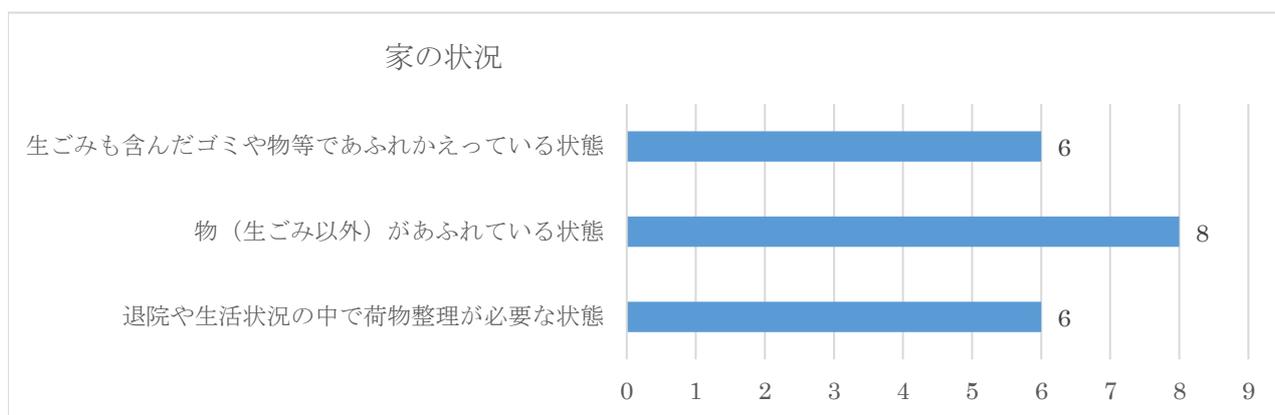
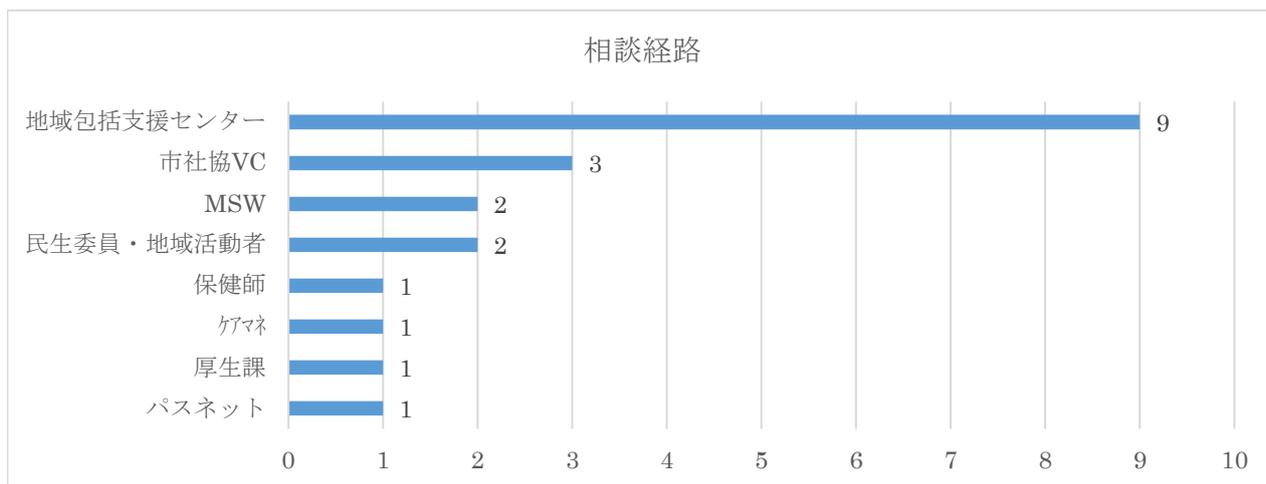


活動開始から4年目になるが、昨年よりも件数は倍増しており、新規相談の4分の3の15件は高齢分野である。そのうち4件については、精神に疾患のある同居家族がいる等の重複の課題があるが、その他については、高齢以外の特徴は特にみられない。

◎平成30年度新規ケース20件の状況

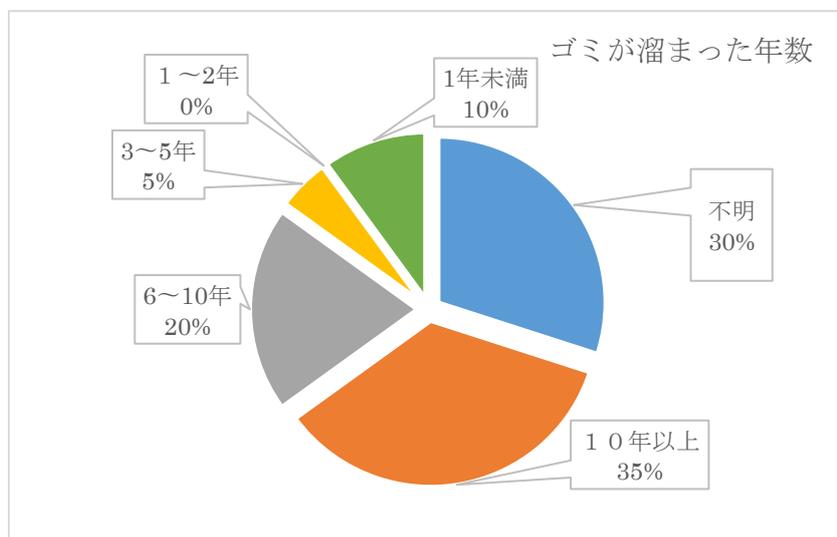


ケースの年代は70代が一番多いが、性別は男女いずれも半数ずつになっている。
 生活支援コーディネーターが圏域担当制になったことで、全圏域からケースが挙がっているが、半数が鳴尾圏域という特徴がみられる。
 鳴尾圏域からの10件のうち、6件は地域包括支援センターから生活支援コーディネーターに相談が入っていることから、困難事例の連携先としてコーディネーターがなっていることが窺える。
 高齢のケース15件のうち、一人暮らしは10件であるが、残りのケースの多くは「8050」の状況がみられ、何らかの課題をもった息子・娘と同居している世帯である。



〇ごみが溜まった年数

年数	件数
1年未満	2
1～2年	0
3～5年	1
6～10年	4
10年以上	7
不明	6

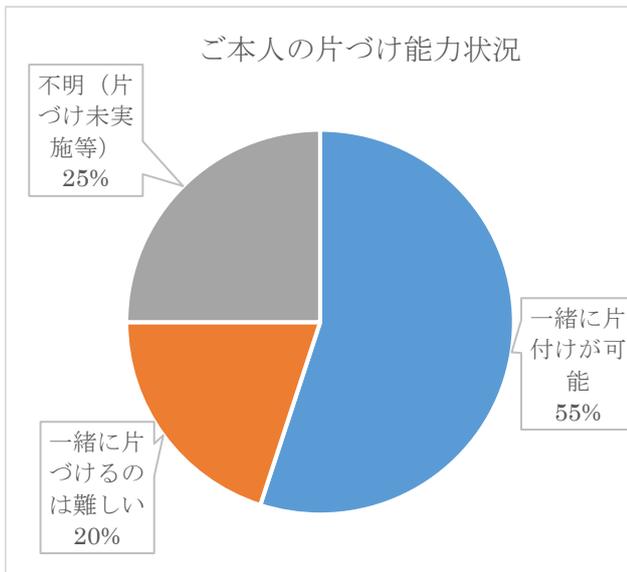


生ごみ等であふれかえっているような、いわゆる「ごみ屋敷」については、全体の3分の1であるが、中には10年以上前からゴミを溜めていた状況であったケースもみられ、片づけをとおして専門職と一緒に介入することで地域やサービスにつなぐことも出来つつある。

それらの困難ケースにはスーパーお片づけ隊の参画とパッカー車等の行政協力が欠かせないが、片づけ以外の課題（生活困窮や判断能力低下等）もあるため、それぞれに継続した支援の計画やキーパーソンも必要と思われる。

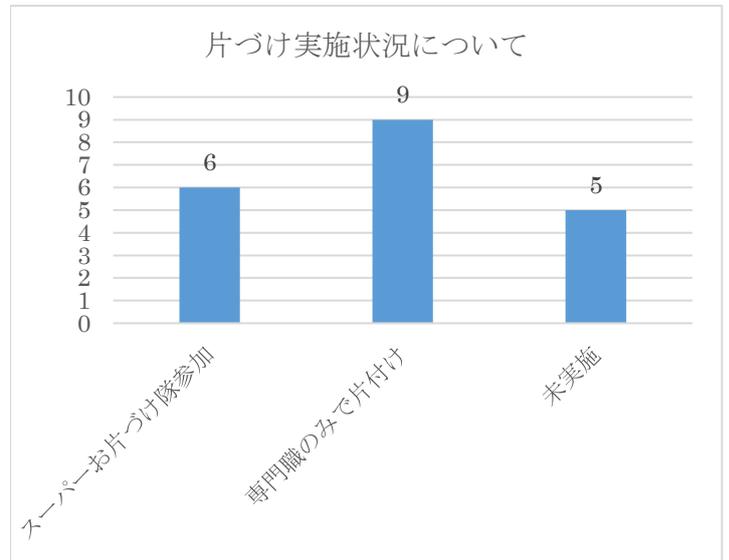
○ご本人の片づけ能力

状況	件数
一緒に片づけを行った	9
一緒に片付けは可能	2
一緒に片づけることは難しい (体力低下・入院中等)	5
不明(未実施等)	4



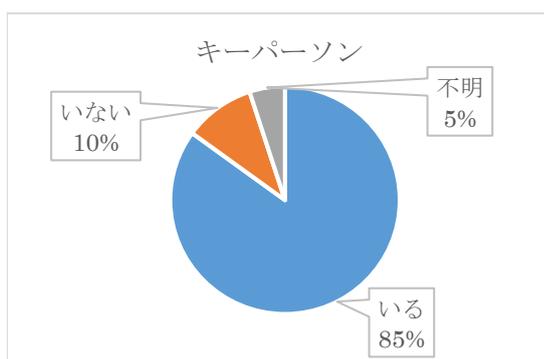
○片づけ実施状況について

状況	件数
スーパーお片づけ隊参加	6
専門職のみで片付け	9
未実施	5



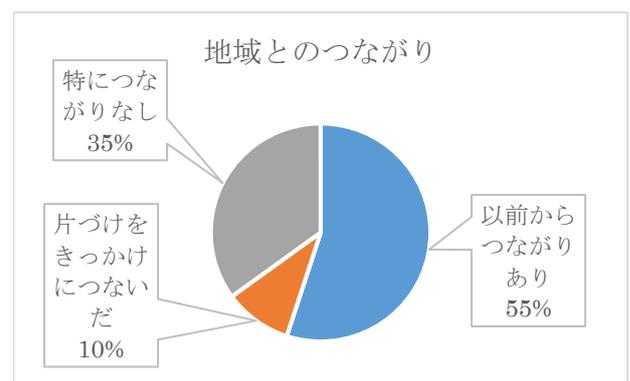
○キーパーソン

状況	件数
いる	17
いない	2
不明	1



○地域とのつながり

状況	件数
以前からつながりあり	11
片づけをきっかけにつないだ	2
特につながりはない	7



ゴミをきっかけで介入することでご本人も一緒に片付けを行う姿が多くみられ、本人も片づけるきっかけを待っていた場合も多いようである。

キーパーソンとして地域包括支援センターやケアマネージャーがいることが多いが、支援者会議等のメンバー調整については、生活支援 Co がキーパーソンと相談しながら関連する専門職や行政に声をかけているケースも多い。また、ご本人が地域とのつながり(民生委員や近隣住民、サロンや昼食会参加等)をすでに持っていたケースが半数であり、地域の中で感じていた課題がこ

2. 連携・協働に向けた取り組み

①西宮市地域づくり支援事業関連

- 1. 地域資源の開発
- 2. ネットワークの構築

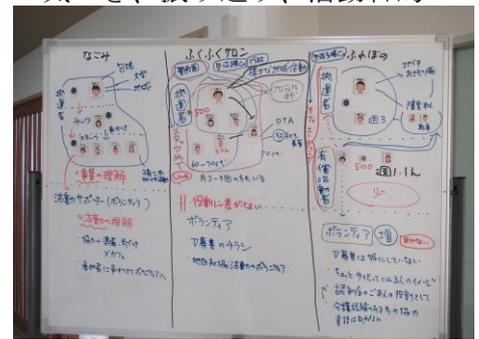
○共生型地域交流拠点（市内3ヶ所）関連会議等への参画

まち cafe なごみ	鳴尾東地域	運営委員会 12回 鳴尾東つながるプロジェクト 2回 鳴尾東地域における生活支援を考える会議 5回 「まちの見守り隊」PJ in 鳴尾情報交換・交流会 3回
ふくふくサロン	今津地域	プロジェクト会議 12回 関係者会議 4回
ふれぼのカフェ	安井地域	カフェミーティング 17回

○「共生型地域交流拠点」代表者会の開催

市内3カ所で運営している「共生型地域交流拠点」の拠点運営者に代表者が集まり、お互いの活動状況等の情報交換や交流をとおして、それぞれの課題への気づき、振り返り、活動目的を確認するための代表者会を開催した。

特に活動者の位置づけの違いを整理することで、各拠点の今後の進め方の可能性を探る機会とした。



日 時：平成30年12月18日（火）10:30～12:15

参加者：各拠点代表者3人、行政・社協5人

場 所：ふれぼの3階 つどいの間

拠点運営者の位置づけや役割、報酬等がそれぞれ異なる中で、それぞれの現状を整理することで課題点を表に出す作業を拠点に代表者のみに集まっていただき実施した。

それぞれのやり方については、意外に知らないことも多く、今後の活動にいかせる内容もあったと思われるが、拠点運営者のあり方や法人の役割については、一定の整理をしていくことが、全市への普及においても必要と思われる。

○「共生型地域交流拠点」開設に向けての取り組み状況

- 春風地区社協・・・地区NW会議での協議開始
- 芦原地区社協・・・地区NW会議での協議開始
- 鳴尾北地区社協・・・地区NW会議でのテーマ化に向けて協議
- 南甲子園地区社協・・・活動者研修会のテーマとして講義
- 生瀬地区社協・・・地区NW会議等での事業説明
- 西宮浜地区・・・地域活動者との協議、住民サロンの開始

- 1. 地域資源の把握・開発
- 2. ネットワークの構築

② 協力事業者による高齢者見守り事業(西宮市との協働事業)

新聞配達や宅配等の事業者および店舗や病院・薬局等の協力(事業登録)により、地域で暮らす高齢者等の異変を発見した場合に地域包括支援センターへの通報連絡をすることで早期に支援につなげていくためのネットワーク構築を行った。

登録事業者 : 81 事業所 (24 事業所増)

通報年間件数 : 8 件

見守り連絡会 : 平成 31 年 3 月 14 日 (木) 参加者 21 人 (13 事業所 14 人・包括 3 人・行政/社協 4 人)

安否確認の通報に限らず、認知症の早期発見に向けても本事業がもつ機能を果たせるために、配達事業者(お弁当等)と利用機関(お店や銀行等)に分かれて、特に従業員への認知症に関する理解促進の方法について協議を進めた。

事業開始から数年たっている経過から、改めての認知症に関する講座受講や本事業の趣旨説明を行う必要があるといった意見から、「見守り連絡会」の持ち方についても次年度以降、検討していく予定である。

③ 「(仮称)西宮市内社会福祉法人連絡協議会」設立に向けて

- 1. 地域資源の把握・開発
- 2. ネットワークの構築

市内の社会福祉法人の連絡体づくりを目指して、前年度に行った社会福祉法人への地域貢献に関するアンケート結果を各法人に報告するとともに、アンケートにおいて世話人としての参画意思の記載のあった法人を中心に意見交換会実施したうえで、準備会に移行し、「社会福祉法人連絡協議会」設立に向けた協議を進めた。

準備会メンバー・・・6 法人 11 人

緑峯会・円勝会・一羊会・神戸 YMCA 福祉会・ほっとスマイル・甲山福祉センター
市法人指導課/市地域共生推進課/市社協

○ (仮称) 社会福祉法人連絡協議会設立に向けた意見交換会・・・1 回

[日時]平成 30 年 11 月 29 日 (木) 10~11 時半

[内容]自己紹介、他市の状況説明、会発足に向けての意見交換等

○ 「(仮称) 社会福祉法人連絡協議会」設立準備会・・・・・・・3 回

[第 1 回]平成 31 年 1 月 11 日 (金) 10~11 時半 内容:会の理念・目的について等

[第 2 回]平成 31 年 2 月 15 日 (金) 10~11 時半 内容:組織体制について等

[第 3 回]平成 31 年 3 月 13 日 (水) 10~11 時半 内容:規約(案)および趣意書(案)について等

意見交換会では各施設での人材不足等の課題はあるが、分野を超えたネットワークを作ること社会福祉法人としての使命を果たすことの重要性を確認できた。その後、発足した準備会でも現在の地域課題に対してできることや福祉人材育成を考えていくためには、まずは連絡体を作ることから始めていくことが重要という意見にまとめ、次年度には具体的な連絡会の立ち上げを行う方向性で進んでいる。

④大学・NPO との連携（会議・事業）

- 1. 地域資源の開発
- 2. ネットワークの構築
- 3. ニーズと取り組みのマッチング

武庫川女子大学	鳴尾地区高齢者健康支援ネットワーク	会議 2回 部会会議（音楽・体操）5回 フェスタへの協力
関西学院大学 社会学部 NPO法人 日本災害救援ボランティアネットワーク	東日本大震災県外避難者支援活動および社会学フィールドワーク等での連携	会議 11回 事業実施 8回

3. 総合相談支援体制構築に向けた取り組み

- 2. ネットワークの構築

住民や当事者からの相談・ニーズをもれなく受け止め、その課題解決に向けて社協内各部署の連携はもちろん、地域住民や専門機関、行政等との連携・協働により支援を行う「総合相談支援体制づくり」に向けて二年前に行った研究会から継続し、社協内各部署横断による「社協体制整備プロジェクト」を実施した。

プロジェクトとして協議し、昨年度にまとめた提言書の中から、特に社協職員として必要な力量である「連携力」「ネットワーク力」を得られることを目指した取り組みの一つとして「新人職員育成プログラム すくすく」を企画・実施した。

○社協体制整備プロジェクト・・・10回開催

- ・メンバー：12人(社協内全8課より主に係長級で構成)
- ・協議内容：人材育成のあり方検討

新人職員育成プログラム「すくすく」実施（全11回：対象者12人）

4. その他

① 広報

○生活支援コーディネーター情報誌「Wi' th」の発行開始
（隔月発行：10, 12, 2月号）

○社協広報紙「しあわせ」居場所特集（3/10号）



生活支援コーディネーター情報誌「With」(ウィズ)

② 会議・研修等

○阪神間生活支援コーディネーター研究会(9/26) コア会議3回（9/13, 10/18, 2/28）

阪神間生活支援コーディネーター情報交換会1回（2/12）

○サポートネット（中央・瓦木・鳴尾）への参加

○西宮市地域自立支援協議会への参画(ほくぶ会・こども部会)

○普及・啓発活動（各地域における研修の講師等）

○各種研修参加

○地区担当者との連携会議、事例検討会、専門職との情報交換会 等

IV. 一年間の活動と今後について

*生活支援 Co が 2 人増員され 6 人体制となり、第 1 層生活支援 Co 1 人が全市域を担当、第 2 層生活支援 Co 5 人がそれぞれ西宮市の地域包括ケア連携 5 圏域の圏域担当制に位置づけることができた。

各圏域ごとに地区担当者や圏域の専門職（地域包括支援センター等）と連携しながら、つどい場等の資源把握や新たな居場所づくりなどの資源開発に向けた取り組みを展開した。

また、地域性や地域課題に応じた人材育成に向けた取り組みを検討し、実際に地域と協働した取り組みを実施したり、「共生型地域交流拠点」の普及に向けて、地区ネットワーク等での協議を進めてきている。

次年度には「共生型地域交流拠点」の具体的な立ち上げに向けて、当該地域住民が主体的に活動できる基盤づくりのサポートを意識しながら活動していく予定である。

*地域課題の一つである「ごみ屋敷」に関する支援の仕組みについては、4 年目となり、様々な専門機関や地域活動者から各圏域の生活支援 Co へ相談が入ってきており、圏域のネットワークづくりを意識しながら支援を行っている。

相談内容も多岐にわたっている現状がみられ、ごみ問題だけでなく生活全般の課題（生活困窮や判断能力の低下等）が背景にあることが多く、ますます行政や専門職、地域住民等との支援のネットワークが必要である。

「ごみ」を切り口にしながらも、各圏域ごとの特徴的な課題やケースから、薄れてきている地域のつながりを再構築したり、契約社会に移行してきたこの数年で失われつつある予防的な取り組みに力を注ぐ必要がある。

*地域にある施設や保育所、神社、飲食店等から「地域とのつながり」についての相談が増えてきており、各圏域の生活支援 Co が対応しながら、実際に地域へつないだり、協働のあり方を模索している。

全市的な社会福祉法人の連絡体に向けての「社会福祉法人連絡協議会」設立に向けては、主体的な参画意向のある法人と連携しながら準備会等を行ってきており、次年度に向けては他の社会福祉法人の参画を得ながらの協議体づくりを行っていく予定である。

また、社会福祉法人に限らず、企業や他法人等の地域貢献活動についても、高齢者見守り事業だけに留まらない地域課題解決に向けての協働先として連携の仕組みを作っていくたい。